

No.57

2007年8月1日号

各チームの購読料はチーム登録料に含まれています。定価(一部100円)

(社)熊本県サッカー協会だより

発行/熊本県サッカー協会
 〒860-0831
 熊本市八王寺町9-60
 TEL 096-334-5565
 FAX 096-334-5568
 発行者/◎広報記録委員会
 石丸 捷一

2007年度 第22回九州クラブユース(U-15)サッカー選手権大会 全国大会にはブレイズ熊本・ダイヤモンド鹿児島・大分トリニータが出場

第22回九州クラブ(U-15)サッカー選手権大会は予選リーグを6月30日・7月1日、決勝トーナメントを7月7日(土)・8日(日)にスポーツの森大津球技場外かぐや姫グラウンドなどで行われた。決勝トーナメントには各パートの1・2位が参加した。a bで全国大会に行くのはダイヤモンドFC鹿児島、c dではブレイズ熊本、e fでは大分トリニータの3チームが九州を代表して全国大会へ出場する。a bの戦いは7月8日11時より大津町球技場で行われるが、前半の早い時間帯にダイヤモンドの放ったシュートが相手に当たり、方向が違ってラッキーな形で先制点が入り、ダイヤモンドが優位に試合を進める。第2試合のc dは熊本対鹿児島となる。第1試合同じレコードになったアミーゴスは、1対1のマンマークディフェンスを80分間貫き、カウターからチャンスを狙っていたが、最後までブレイズDF陣を崩せず、PK戦の末惜敗。第3試合のe fは15時から同球技場で行われた。両チームともサイドバックの果敢な飛び出しから一進一退の攻防を続けるが、結果的にトリニータが前半1点後半にも追加点を決めて勝利。全国大会は8月行われる。

2007年度第22回九州クラブユース(U-15)サッカー選手権大会

■予選リーグ

●aパート

	長崎FC	崎川FC	田隈FC	F中	C津	ヴィクトリア	勝点	得点	失点	得差	順位
長崎FC							7	8	2	6	1
崎川FC	1△1 (0-0)						7	7	3	4	2
田隈FC	1△1 (0-0)	1△1 (0-0)					3	5	9	-4	3
F中	0●5 (0-3)	1●2 (0-0)	1●2 (0-0)				0	4	10	-6	4
C津	1●2 (0-1)	1●4 (0-3)	2●4 (2-1)								
ヴィクトリア	2●0 (1-0)	2●1 (1-0)	4●1 (3-0)								

●bパート

	別府FC	府中FC	アミス	レイノ	大野城	勝点	得点	失点	得差	順位
別府FC						9	9	1	8	1
府中FC	1●0 (0-0)					6	5	1	4	2
アミス	0●1 (0-0)	0●1 (0-0)				1	2	8	-6	3
レイノ	1●6 (1-1)	0●1 (0-1)	1●1 (1-0)			1	1	7	-6	4
大野城	0●2 (0-0)	0●4 (0-2)	1△1 (1-0)							

●cパート

	ブレイズ	アビスパ	ヴィラル	SOLEIL	勝点	得点	失点	得差	順位
ブレイズ					9	11	0	11	1
アビスパ	0●1 (0-0)				6	17	2	15	2
ヴィラル	0●7 (0-6)	0●10 (0-7)			3	5	21	-16	3
SOLEIL	0●3 (0-1)	1●7 (0-3)	4●5 (1-2)		0	5	15	-10	4

●dパート

	VALENTIA	UKI-C	フェルサ	川内	勝点	得点	失点	得差	順位
VALENTIA					7	6	1	5	1
UKI-C	0△0 (0-0)				5	2	1	1	2
フェルサ	1●2 (1-0)	1△1 (1-0)			4	6	4	2	3
川内	0●4 (0-2)	0●1 (0-1)	1●4 (1-1)		0	1	9	-8	4

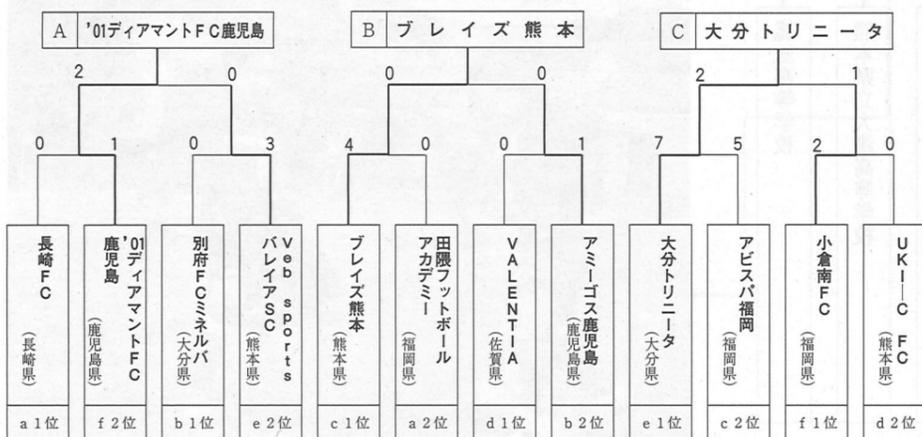
●eパート

	トリニータ	パレリア	NEO	AC77	勝点	得点	失点	得差	順位
トリニータ					9	10	1	9	1
パレリア	3●0 (2-0)				6	6	4	2	2
NEO	0●3 (0-2)	2●0 (1-0)			3	5	7	-2	3
AC77	0●4 (0-4)	1●4 (1-2)	2●4 (1-1)		0	3	12	-9	4

●fパート

	小倉南	ダイヤモンド	アリアサ	佐世保	勝点	得点	失点	得差	順位
小倉南					9	10	1	9	1
ダイヤモンド	1●0 (0-0)				6	5	2	3	2
アリアサ	0●1 (0-0)	3●0 (0-0)			3	5	7	-2	3
佐世保	0●6 (0-3)	1●2 (1-2)	1●4 (1-2)		0	2	12	-10	4

■決勝トーナメント



攻めるブレイズ熊本(黄)鹿児島(青)



攻め上る鹿児島



順位決定戦 ブレイズ熊本がアミーゴス鹿児島と大分トリニータを破り1位になる



PK戦に勝って喜ぶブレイズの面々

平成19年度 第18回九州高等学校女子サッカー選手権大会

神村学園高等部女子サッカー部 1年ぶり11度目の優勝

第18回九州高等学校女子サッカー選手権大会は、6月23日(土)・24日(日)熊本県菊陽町杉並木公園さんさんスポーツ広場において開催された。九州各県から13チームが出場し、県内からは県立大津高校と熊本学園大学付属高校が出場した。

組合せは、第1試合目となった学園大付属高校対那覇西高校の試合は、経験が勝る那覇西に前半5点と後半7点を失い、12対0で初戦敗退した。

一方、県大会優勝した大津高校と常連校である島原商業との試合は、前半一歩も譲らない戦いとなった。

試合が動いたのは前半18分、大津高校の⑧松永が右サイドから相手DFイフェンダーをかましそのままゴールを決め、前半は大津高校のリードで折り返した。後半は、島原商業が意地をみせ1点を取り返し、1対1の同点のまま試合はPK戦へともつれこみ、見事大津高校が4対3で初戦を突破した。

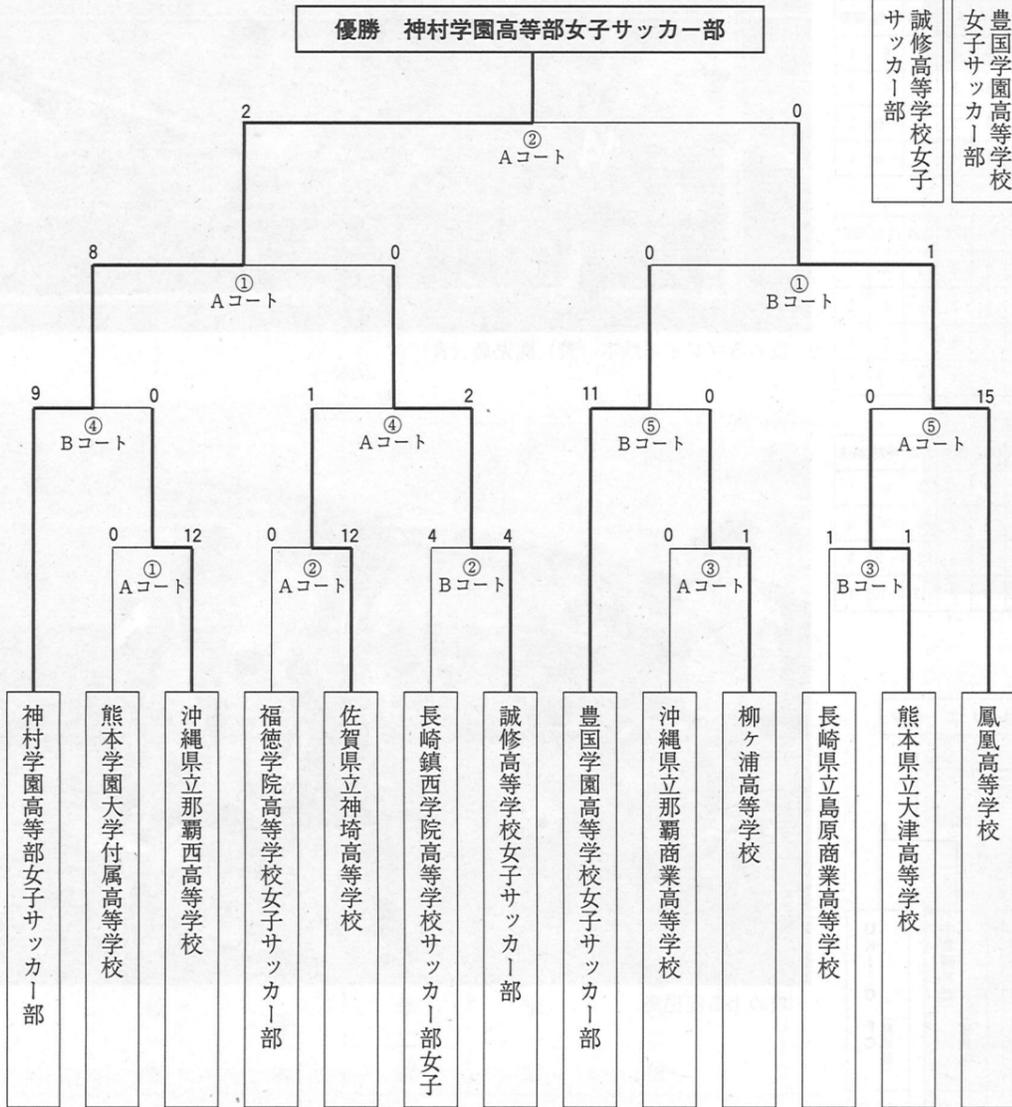
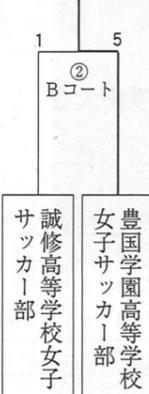
二回戦の相手は、強豪鳳凰高校との戦いとなった。結果は15対0で熊本県大津の2回戦敗退となった。尚優勝したのは神村学園で、1年ぶり11度目の優勝で幕を閉じた。又、全国大会は7月28日(土)8月5日まで静岡県磐田市で開催され、神村学園と鳳凰高校の2チームが出場することになった。

平成19年度 第18回九州高等学校女子サッカー選手権大会

期日 平成19年6月23日(土)・24日(日) 23日(土)一回戦・準々決勝
会場 熊本県菊陽町杉並木公園 24日(日)準決勝・決勝・3位決定戦
さんさんスポーツ広場

優勝	神村学園高等部女子サッカー部
準優勝	鳳凰高等学校
第3位	豊国学園高等学校女子サッカー部

3位決定戦



サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針

1 [基本的指針]
全てのサッカー関係者は、屋外でのサッカー活動中(試合だけでなくトレーニングも含む)に落雷の予兆があった場合は、速やかに活動を中止し、危険性がなくなると判断されるまで安全な場所に避難するなど、選手の安全確保を最優先事項として常に留意する。特にユース年代(キッズ年代)の活動に際しては、自らの判断により活動を中止することが難しい年代であること配慮しなければならない。

※ 全てのサッカー関係者とは主として指導者(部活動の顧問含む)、審判員、運営関係者などであるが、下記にある通り放送局やスポンサー他、選手も含めて広義に解釈するものである。

2 基本的指針の実行のために、下記の事項について事前に良く調べ、また決定を行ったうえで活動を行うものとする。

① 当日の天気予報(特に大雨や雷雲などについて)

② 避難場所の確認
活動中止の決定権限を持つ者の特定、中止決定の際の連絡フローの決定

※ サッカー競技規則上では「試合の中止は審判員の判断によること」となっているが、審判員が雷鳴に気づかない、審判員と他関係者との関係で必ずしも中止権限を審判員が持たないケース(例えばユース審判員：これに限らない)などもあり、このような場合は中止を決定する/または審判員に中止勧告を行う人間をあらかじめ明らかにしておくこと。※ トレーニングやトレーニング活動なども活動中止決定を事前に決めてから活動をはじめるとする。

※ 中止決定者が近くにいない状況で現象が発生した時は、その場にいる関係者が速やかに中止を決定できることとしておく事。

3 大会当日のプログラムを決める際はあらかじめ余裕を持ったスケジュールを組み、少しでも危険性のある場合は躊躇なく活動を中止すること。

大会スケジュールが詰まっていたり、テレビ放送のある試合などでも、本指針は優先される。従って事前に関係者(放送局、スポンサー含む)の間において、選手・観客・運営関係者等の安全確保が優先され、中止決定者の判断は何よりも優先されることを確認しておくこと。

4 避雷針の有無(避雷針があるからと言って安全が保障される事はないが、リスクは減る)や避難場所からの距離、活動場所の形状(例：スタジアム、河川敷G、等)によって活動中止の判断時期は異なるが、特に周囲に何もない状況下においては少しでも落雷の予兆があった場合は速やかに活動中止の判断を行うこと。

第11回 熊本県女子ユース(U-18)サッカー選手権大会 熊本ユナイテッドSCフローラは9年連続10度目の優勝

第11回熊本県女子ユース(U-18)サッカー選手権大会の決勝戦は、平成19年7月16日(台風のため順延につき)熊本県運動公園補助競技場で、午前10時のキックオフで熊本ユナイテッドSCフローラ対MELSA熊本FCアマールの対戦となった。

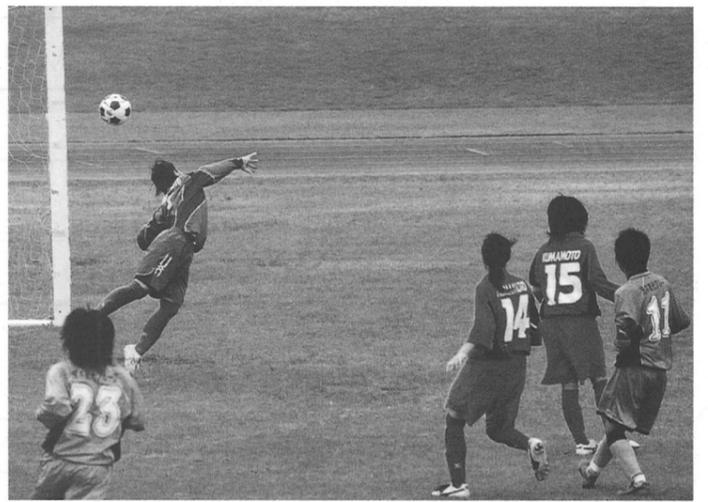
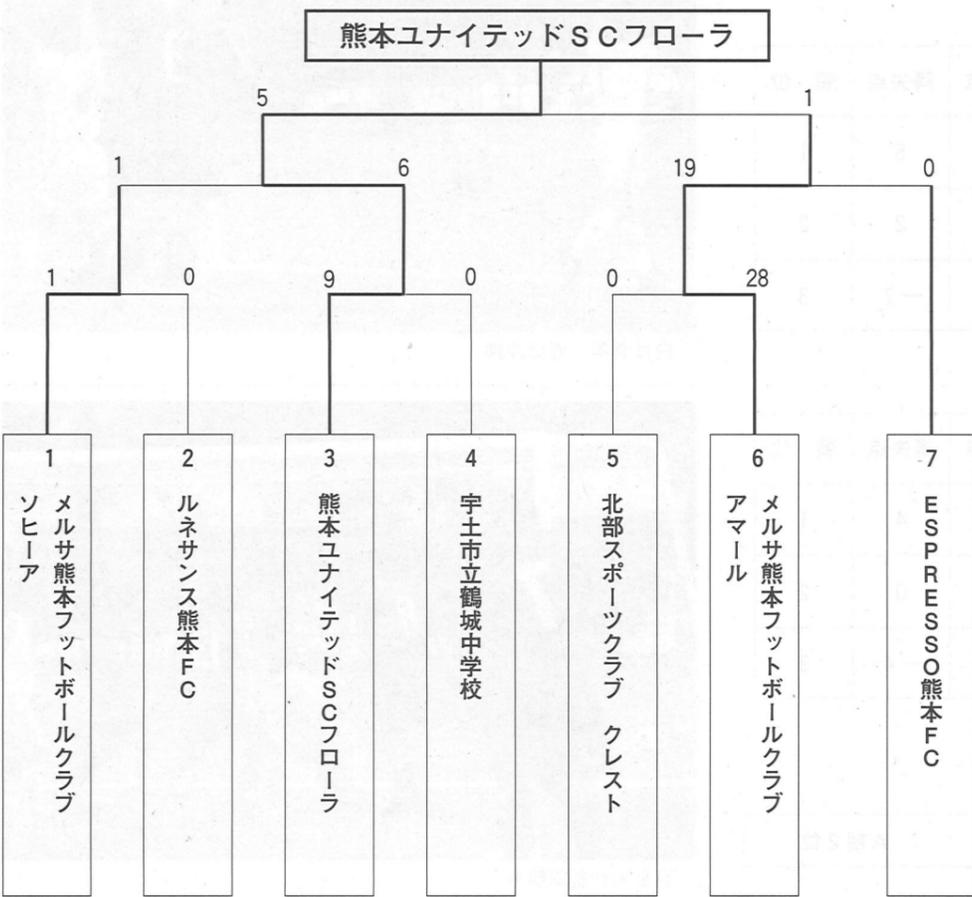
結果は前半3-0、後半2-1の計5-1で熊本ユナイテッドSCフローラが9年連続10回目の優勝を飾った。

試合は前半1分、熊本ユナイテッドの⑬斉藤麻美はドリブルで相手をかましシュート。これに気を良くして前半12分、またもや⑬斉藤麻美がシュート。36分には⑫米満円香がシュート。前半3対0で熊本ユナイテッドSCフローラが勝利に1歩近くなり、折り返した後半も46分に⑯佐藤慶子が入れる。69分には⑫羽矢万純が入れる。これで5対0。最後にMELSA熊本FCアマールの⑪渡辺彩香がシュートを決めるが、その後試合終了のホイッスルがなり、試合は終わった。

この試合はその日は決勝戦のみであったが、父兄の皆様の応援もすごかった。

尚、優勝した熊本ユナイテッドSCフローラは、11月10日(土)・11日(日)に福岡県で開催される第11回九州女子ユース(U-18)サッカー選手権大会に、本県代表として出場する。

第11回熊本県女子ユース(U-18)サッカー選手権大会



赤は熊本ユナイテッドSCフローラ、水色はメルサ熊本FCアマール



〈落雷の予兆〉に関する参考資料

文献「雷から身を守るには―安全対策Q&A―改訂版」(日本大気電気学会編、平成13年発行)には、落雷被害を避けるための予防方法について次のように記述されている。以下抜粋して掲載する。

「どのような方法でも発生・接近の正確な予測は困難ですから、早めに安全な場所(建物、自動車、バス、電車などの内部)へ避難することです。

モクモクと発達した一群の入道雲は落雷の危険信号です。厚い黒雲が頭上に広がったら雷雲がさらに近づいたと考えて下さい。雷雲が近づくときは、多くの場合には突風が吹くとともに気温が下がり、やがて激しい雨になります。しかし、突風や降雨より落雷が先に起こることがありますので、早めの避難が大切です。」

「雷鳴はかすかでも危険信号です。雷鳴が聞こえるときは、その後の雷が自分に落ちてくる危険がありますから、すぐに安全な場所に避難して下さい。雷鳴が聞こえなくても雨も降っていないときに、突然落雷が発生する場合がありますので、雷鳴だけで雷の発生や接近を判断するのは危険です。もっと遠いところの雷の発生は、ラジオで中波や短波のAM放送を受信していると、ガリッガリッという雑音が入ることにより、検知できます。雑音の間隔が短くなり、激しく連続的になるときは、雷がさらに接近してくるときです。このときはラジオの雑音だけでなく、雷鳴にも注意して下さい。雷鳴が聞こえてくれば、雷雲はすでに危険な範囲に入っています。」

「雷雲が遠ざかって雷鳴が聞こえなくなっても、20分くらいはまだまだその雷雲から落雷の危険がありますから、安全な場所待機することが必要です。また、一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づいてくる場合がありますので、新しい雷雲の接近に常に注意することが必要です。」

「自動車、バス、列車、鉄筋コンクリート建築の内部は安全です。」

「本格的な木造建築の内部も普通の落雷に対しては安全です。しかし、テントやトタン屋根の仮小屋の中は、屋外と同様に雷の被害を受ける危険があります。」

「絶えず雷鳴に注意し、空模様を見守ります。雷鳴がきこえたり雷雲が近づくと様子があるときは、直ちに近くの建物、自動車、バスの中に入り、安全な空間に避難します。雷鳴は、遠くかすかに聞こえる場合でも、自分に落雷する危険信号と考えて、直ちに避難して下さい。雷活動が止んで20分以上経過してから、屋外に出ます。」

「屋根のない観客席も危険ですから、安全な場所に避難します。」

日本スポーツマスターズ2007滋賀大会 九州予選

全国大会には鹿児島SFCと宮崎県選抜チームが出場

日本スポーツマスターズ2007サッカー競技の九州予選は6月23日より24日まで鹿児島ふれあいスポーツランドにて行われた。結果は鹿児島SFCと宮崎県選抜チームが滋賀県守山市で開催される全国大会に出場することが決定した。

尚、今回からシニアは2試合と決定しているためA組とB組に分けて行なった。

代表決定戦はA組1位とB組2位、B組1位とA組2位が戦い、勝利したチームが全国大会へ出場する。又、代表決定戦後、九州の1位と2位は日本サッカー協会へ報告の義務が必要のためPK戦を行う。

各チームは監督会議の時抽選を行う。本県はA組に所属する。長崎代表と口之津サッカークラブには3-0で勝利。沖縄シニア選抜チームには3対1で勝利し、対戦相手にはB組2位の宮崎県選抜チームとなったが、0対0で引分けてPK戦となったが、熊本県の方が二人はずつして5-3で負けとなり、マスターズは毎年出場しているが、今年の出場はなし。今迄のように総当たりになっていれば第一通過になったであろうが、今年の出場は出来ない。

全国大会は主催は(財)日本体育協会、9月15日より18日まで守山市野洲川歴史公園サッカー場で開催される。

予選リーグ 成績表

A組

	①熊本	②沖縄	③口之津	勝点	得点	失点	得失点	順位
①熊本県選抜	-	3-1	3-0	6	6	1	5	1
②沖縄シニア	1-3	-	4-0	3	5	3	2	2
③口之津SFC	0-3	0-4	-	0	0	7	-7	3

B組

	①鹿児島	②宮崎	③日清	勝点	得点	失点	得失点	順位
①鹿児島SFC	-	2-0	2-0	6	4	0	4	1
②宮崎県選抜	0-2	-	2-0	3	2	2	0	2
③日清シニア	0-2	0-2	-	0	0	4	-4	3

代表決定戦

A組1位	B組2位	B組1位	A組2位
熊本県選抜	対 宮崎県選抜	鹿児島SFC	対 沖縄シニア
0	- 0	2	- 0
(PK 3-5)			

優勝決定戦 (PK戦)

鹿児島SFC 4-1 宮崎県選抜

総合1位 鹿児島SFC 総合2位 宮崎県選抜



白は熊本 青は沖縄



点を入れ喜ぶ熊本



GKオレンジは沖縄



代表決定戦 白は熊本、緑は宮崎

喜ぶ宮崎のスタッフ



第14回 RKKカップ争奪 全国クラブチーム選手権熊本県大会

菊陽キャロッツ 初優勝

第14回RKKカップ争奪全国クラブチームサッカー選手権大会は、7月8日益城町運動公園陸上競技場で準決勝2試合と決勝戦の1試合を行った。

結論から言えば菊陽キャロッツとワンステップとの対戦となったが、2対1で菊陽キャロッツの初優勝となった。

前半3分、右サイドからのデフエンスの裏に出たロングボールに、飛び出した菊陽キャロッツの五瀬吉洋選手がキーパーとの1対1から落ち着いて先制ゴールを決める。

前半10分、中央からのスルーパスに走り込んだワンステップの宮本真伸選手が左足で豪快に蹴り込み同点とした。

前半15分、中央でボールを受けた菊陽キャロッツの西村真一選手が、前の目のポジションニングのキーパーの頭上を越す技ありのミドルシュートで勝ち越し、前半はそのまま終了した。

後半も一進一退の攻防が続く。

細かなパスと大きいパスを巧みに使い分け攻め込むワンステップしかし、粘り強いデフエンスとキーパーの好セーブもあり、最後まで守り切った菊陽キャロッツが勝利する。尚、優勝した菊陽キャロッツは9月22日、24日長崎県で行われる九州大会に本県代表として出場する。

第14回RKKカップ争奪 全国クラブチームサッカー選手権 熊本県大会



青はONE STEP 準決勝戦より



黄はサンズ甲佐



白は優勝した菊陽キャロッツ



決勝戦は写さず



赤黒はフィールダー八代

第22回 大杉杯争奪学生サッカー大会 (益城町人工芝Gにて) 熊本大学サッカー部が2回目の優勝

NHK杯熊本県サッカー選手権と天皇杯全日本選手権県予選の2つの学生代表枠をかけた大杉杯学生サッカー大会は、決勝と3位決定戦が7月7日に行われ、熊本大学が2対1で熊本学園大学に勝利し、学生のNo.1になった。

第3位は、九州看護福祉大学を4対0で引き離した九州ルーテル学院大学となった。優勝した熊本大学と熊本学園大学はNHK杯に出場する。

この大会は、今年度から予選リーグ、決勝トーナメント方式に変更。

九州大学リーグに所属する熊本大と学園大の2チームは、決勝トーナメントからの登場となった。

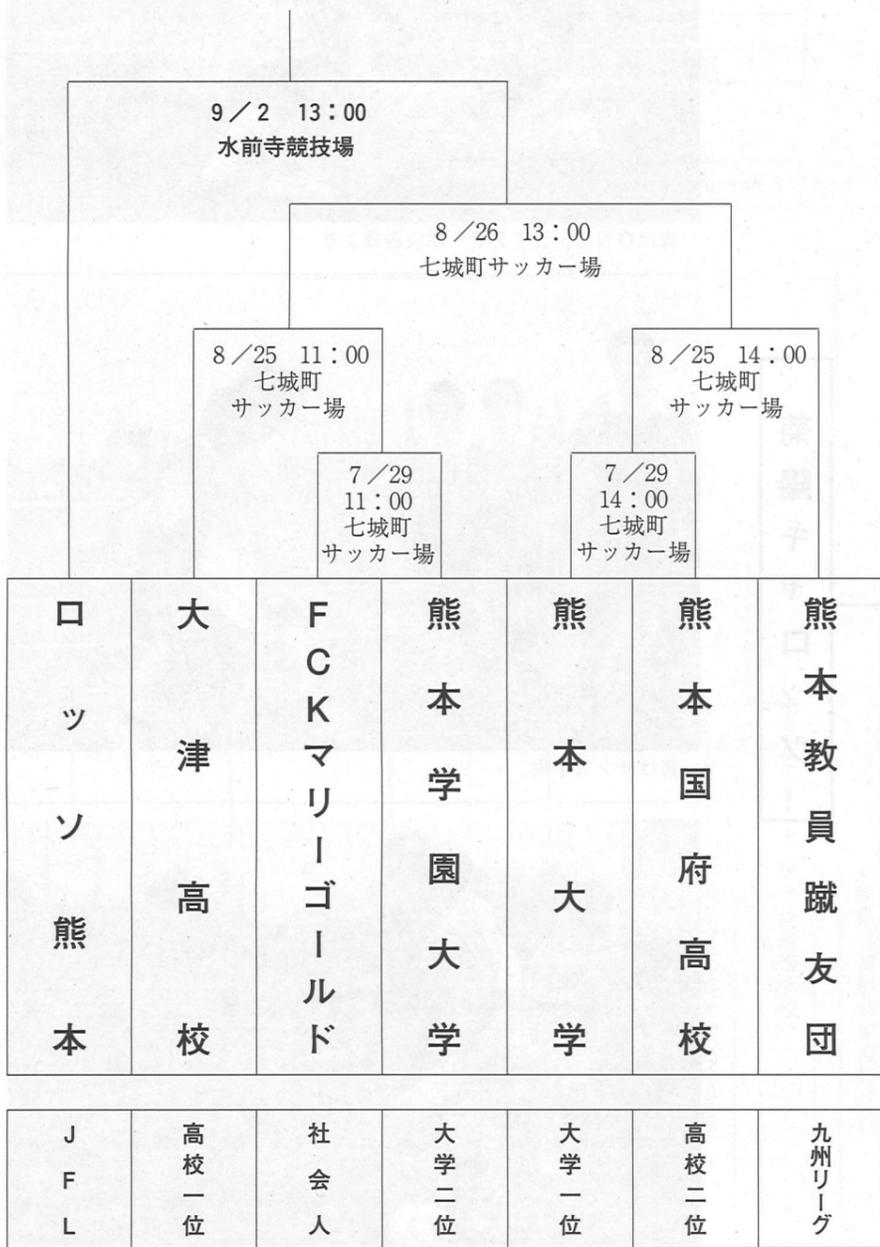
県内の学生の公式競技会は、大杉杯と県学生リーグの2つしかない、少しでも多くの試合経験ができるようにした。

また、今年度は益城町陸上競技場ですべての試合を行った。

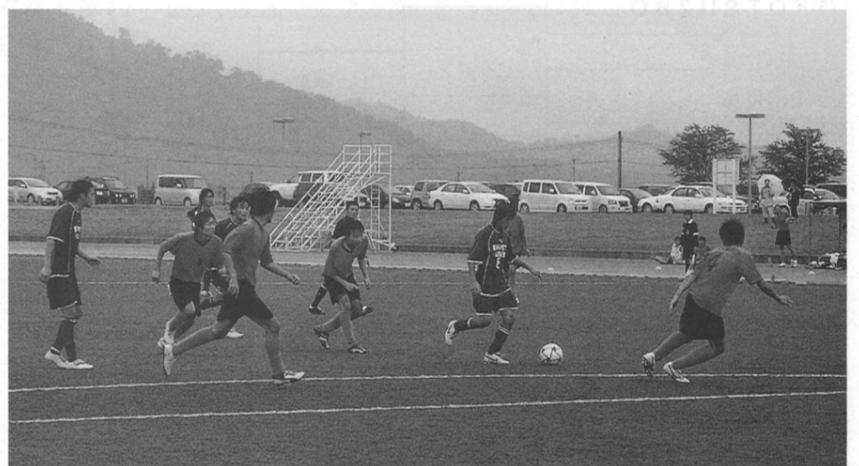
特に最終日は、大雨が続く中での試合だったが、ボールが水たまりで止まったりすることもなかったため、技能を発揮できる環境で行えたのではないだろうか。

運営については、会場担当、審判、広報など学生が役割を分担してスムーズに行うことができた。確実にレベルアップしていると感じる。

第11回NHK杯・熊本県サッカー選手権大会 組合せ



オレンジ熊大 青は学園大



攻める学園大



学園大のインターセプト



攻める熊大



優勝した熊大イレブン